福知山市 令和8年度事務事業評価シート

Ⅰ 事業属性

（単位：千円）

事業名	認知症施策推進事業						事業コード	030201420580		
政策体系	基本政策	6 市民一人ひとりが、最期まで生き生きと暮らし、温かく見送られるまち			政策目標	3 介護サービスの基盤整備				
	施 策 名	2 認知症の人と、その家族への支援の充実					施策コード	632		
事業担当	所属	150700 健康福祉部地域包括ケア推進課			所属長	塩見 康代				
会計情報	款	03地域支援事業費	項	02包括的支援事業・任意事業費	目	01包括的・継続的ケアマネジメント支援事業費	会計	15 介護保険	決算附属資料	251 頁
計画期間	開始年度	平成27年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	第10次高齢者保健福祉計画			R8現在の状況	継続中
根拠法令等	介護保険法第115条の45第2項第6号									
事業区分	☐ 法定受託事務 ☑ 国府補助事業 ☐ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 （ ）									
関連事業	—									

Ⅱ 事業基礎情報

背景(現状) (3行程度以内)	※事業を実施する背景や事業における現状 ・高齢化が急速に進行する中、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて、新オレンジプランを元に事業を実施しているが、認知症の理解は十分ではない。 ・全体の総括は市が行っているが、各事業は市内在住のキャラバンメイト、上位サポーター（市民ボランティア）、介護保険事業所の協力を得ながら実施している。
課題 (3行程度以内)	※事業目的と現状とのギャップを埋めるために、真に解決すべきこと・最も直すべきところ ・「認知症の人や家族の支援」と「市民啓発」の両輪で事業を進めているが、まだまだ認知症に対する理解が十分とはいえないため、より多くの人に認知症の理解が進むよう普及啓発が必要である。また、同時に認知症の人が本人らしく過ごせる環境整備が必要である。 ・症状が進行してからの相談が多いため早期診断、早期対応に繋がる支援を進めていく必要がある。
事業目的 (5行程度以内)	※背景（現状）、課題をふまえ、何のために事業を実施するのか。（紐づくまちづくり構想の施策も踏まえて記入） 認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けるために、早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築と認知症ケアの向上を図る。※令和5年度事務事業評価シートから政策体系を変更【施策コード623 ⇒ 632】
実施概要 (5行程度以内)	※事業目的を達成する手段として、誰（何）を対象に、どのような手段・手法で事業を行うのか箇条書きで記載すること 認知症支援体制を構築するとともに国が策定する認知症施策推進基本計画に基づき、計画的に進める。 認知症サポーター養成講座・認知症初期集中支援チームの運営・認知症ケアパスの普及啓発・福知山SOSネットワークの構築・認知症ステップアップ講座による上位サポーターの養成と活動支援・認知症カフェや家族会の開催

対象者	認知症の人とその家族	対象者数	6,050	単位あたりコスト	2.8
実施方法	☑ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 （ ）				
委託先・実施主体等					

主な支出に係る業務内容と経費

費目	実績（R7）	主な業務内容	費目	実績（R7）	主な業務内容
報償費	316	初期集中支援チーム員報償費			
旅費	7	研修会等			
需用費	226	ｻﾎﾟｰﾀｰ活動物品購入費等			
役務費	85	ボランティア保険、案内郵送費等			
使用料及び賃借料	194	公用車賃借料			
備品購入費	119	キャビネット購入費			

Ⅲ 予算執行状況

区 分		R6（評価前年度）	R7（評価年度）	R8（本年度）	R9（要求年度）
予算情報	① 当初予算	2,011	2,009	1,998	0
	② 補正予算	0	0	0	0
	③ 繰越予算	0	0	0	0
	前年度繰越	0	0	0	
	次年度繰越	0	0	0	0
	小計（①～③）	2,011	2,009	1,998	
予算財源内訳	① 一般財源	0	0	0	
	② 国支出金	774	773	1,028	
	③ 府支出金	387	387	385	
	④ 地方債	0	0	0	
	⑤ その他特財	850	849	585	
決算情報	① 流充用額	0	0		
	② 配当予算	2,011	2,009		
	③ 執行額	1,084	947		
	④ 執行率	53.9%	47.1%		
人工概算	① 従事職員数（正職員 /会計年度任用職員）	2.07 / 1.36	1.42 / 1.60	/	/
	② 概算人件費	20,368	15,840		
トータルコスト（予算執行額+概算人件費）		21,452	16,787		

主な利用特財（R7年度実績値）	特財名称	種類		実績金額	決算附属資料		頁
	地域支援事業交付金（介護予防・日常生活以外の地域支援事業）	現年度分（国）		365		244	
	地域支援事業交付金（介護予防・日常生活以外の地域支援事業）	現年度分（府）		182		245	
	介護給付費等繰入金	介護給付費等繰入金		182		245	

Ⅳ　業績指標（ロジックモデル）

成果指標及び成果実績①（直接・短期アウトカム）	定量的な成果指標		単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	最終目標年度令和8年度	
	※**直接アウトカム**・・・下の活動指標及び活動実績（アウトプット）により、事業対象者に対してどんな効果を発現させたいか。	成果実績	人	6,328	6,747	7,153	7,450		
	認知症サポーターの人数	目標値		6,400	6,800	7,200	7,500	7,500	
		達成度	%	99%	99%	99%	99%		
活動指標及び活動実績①（アウトプット）	活動指標		単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標最終年度令和8年度	
	※**アウトプット**・・・アクテビティをどれだけ実施するか（したか）を数値で測る目標名・実績。	活動実績	回	23	19	22	14		
	認知症サポーター養成講座開催回数	当初見込		20	20	20	20	20	
活動内容①（アクティビティ）	※**アクテビティ**・・・アウトプット・アウトカムにつながる、事業の具体的な活動。誰を対象に何を行うのか。								
	認知症に関する正しい知識や対応について学ぶための認知症サポーター養成講座を、各地域包括支援センター主催ほか、要望があれば随時開催。								

成果指標及び成果実績②（直接・短期アウトカム）	定量的な成果指標		単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	最終目標年度令和8年度	
	※**直接アウトカム**・・・下の活動指標及び活動実績（アウトプット）により、事業対象者に対してどんな効果を発現させたいか。	成果実績							
		目標値							
		達成度	%						
活動指標及び活動実績②（アウトプット）	活動指標		単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標最終年度令和8年度	
	※**アウトプット**・・・アクテビティをどれだけ実施するか（したか）を数値で測る目標名・実績。	活動実績							
		当初見込							
活動内容②（アクティビティ）	※**アクテビティ**・・・アウトプット・アウトカムにつながる、事業の具体的な活動。誰を対象に何を行うのか。								

Ⅴ　事業担当所属内による自己点検

定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	※必要性、効率性、有効性の観点を基に記述すること ・認知症サポーター養成講座の開催により、認知症サポーターは増加している。活動意欲の高い認知症サポーターにはステップアップ講座を受講の上、認知症サポーター養成講座への協力や家族交流会の活動などに参加いただいている。 ・認知症初期集中支援チームを設置により、診断や支援に繋がっていない認知症の人やその家族への支援体制が進んできている。 ・「認知症の人や家族の支援」と「市民啓発」の両輪で事業を進めているが、認知症に対する理解が十分とはいえないため、より多くの人に認知症の理解が進むよう普及啓発が必要である。また、同時に認知症の人が本人らしく過ごせる環境整備が必要である。 ・症状が進行してからの相談が多いため、引き続き、早期診断、早期対応に繋がる支援を進めていく必要がある。
現状の課題に対する改善策	・認知症初期集中支援チームについて、既に地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に周知を行っているが、繰り返し周知を行い、更なる利用促進につなげていく。チームが関与するメリット、具体的な活動内容のPRにも努めたい。 ・認知症サポーター養成講座は、今後も市内在住のキャラバン・メイトの協力を募り、普及啓発の取組みを進めることにより、地域全体に対して認知症への理解を進めていきたい。また、各地域包括支援センターと連携し、個別ケースの地域ケア会議等により、認知症の人の生活を地域で支援することについて協議していきたい。 ・認知症上位サポーターについては、認知症カフェ、家族交流会等での活動や認知症サポーター養成講座において講師と一緒に出て活躍する等、連動した取組みを進めていく。